

令和元年度最高裁判所総合評価審査委員会（第10回） 議事概要

|                           |                                                                                                                                               |
|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催日及び場所                   | 令和2年2月28日（金）～令和2年3月3日（火）<br>最高裁判所小会議室，工学院大学，明治学院大学                                                                                            |
| 委 員                       | <p>委 員 長 中 城 康 彦（明海大学不動産学部教授）</p> <p>委 員 遠 藤 和 義（工学院大学建築学部教授）</p> <p>伊 室 亜希子（明治学院大学法学部教授）</p> <p>伊 藤 肇（経理局営繕課首席技官）</p> <p>藤 田 耕一郎（同 次席技官）</p> |
| 委員からの意見・<br>質問及びそれに対する回答等 | 別添のとおり                                                                                                                                        |

(別添)

1 令和元年度（上半期）の総合評価落札方式の発注状況について

- (1) 令和元年度（上半期）総合評価落札方式の発注状況について説明
- (2) 委員からの主な意見は以下のとおり

【委員】

今年度の入札状況に特徴はあるか。

【事務局】

上半期は不調不落が多い傾向にあったが、再度入札で契約に至るものもあった。今後も不調不落傾向が続くようであれば、乖離状況を調査するなどして原因について検討していく必要があると考えている。

【委員】

了解した。

2 令和2年度総合評価落札方式及びプロポーザル方式の実施方針等について

- (1) 令和2年度総合評価落札方式及びプロポーザル方式の実施方針等について説明
- (2) 委員からの主な意見は以下のとおり

【委員】

特別重点調査の調査額算定率が国交省と違う点について、理由があるか。

【事務局】

裁判所は単年度予算で行う案件が多いため、国交省が本年度見直しを行った算定率とした場合、多くの案件で入札スケジュールが長期化し、工事等の工期確保が困難となる。そのため、とりあえず従前の算定率とし、今後の入札状況等も鑑みながら検討したいと考えている。

【委員】

了解した。

3 令和2年度における競争参加資格の設定について

- (1) 令和2年度の競争参加資格の設定について説明
- (2) 委員からの主な意見は以下のとおり

【委員】

業務の配置予定管理技術者等の資格の記載に、積算業務のみ括弧内記載しているのは何か理由があるか。

【事務局】

裁判所は新営の設計業務委託に積算業務を含めておらず、別の業務委託として積算事務所等と契約していたが、昨今は別発注が困難な状況にあるため、案件によっては設計業務委託に積算業務を含んで発注する場合がある。そのため、括弧書きで積算業務について、明記したものである。

**【委員】**

積算業務を含めて設計業務を発注しても良いが、必ず含めて発注するものではないということか。

**【事務局】**

実情に応じて市場調査等をし、案件ごとに検討していくことになると考えている。

**【委員】**

了解した。

4 令和2年度の審査対象案件の抽出について

- (1) 令和2年度の審査対象案件について説明
- (2) 委員からの主な意見は以下のとおり

**【委員】**

総合評価審査委員会の審議対象となる案件は、今年度より若干減少か。また、理由はあるか。

**【事務局】**

今年度に比べると若干減少はするが、通常年度の総合評価審査委員会対象案件は、1～3件程度であるため、令和2年度についても、通常年度以上の案件数となる。

**【委員】**

了解した。

5 令和元年度審査対象案件の経過報告外について

- (1) 令和元年度審査対象案件の経過報告外について説明
- (2) 委員からの主な意見は以下のとおり

**【委員】**

評価項目、評価テーマ選定の審議の際、候補の中で順位付けをして選定することについて了解した。

**【委員】**

今年度の審議の中で課題となった部分について対応をし、整ってきているという印象である。

その他

- (1) 今後の委員会スケジュールについて説明
- (2) 委員からの意見等はなし